



佐々木小

第 2 号
令和 4 年 5 月 1 6 日
佐々木小学校
新発田市則清 8 5 6
Tel. 0254 - 27 - 2011

互いの話を聞き合う時には 「オウム返し」と「“そ”の付く言葉」が大切

校長 齋藤 博敏

先日、年配の人と話したら「近頃の若い人はどうなっているんだ…」と言われました。私が 20 歳になった頃には、当時の若者はどこか遠い星からやってきた「エイリアン（異星人）」のように、大人からは理解できない者と考えられ、「新人類」と言われました。私も若い時、「近頃の若い人は…」と言われました。その「新人類」の私が、最近、「今の若い人は…」と言っています。民俗学者の柳田国男氏によると、「近頃の若い人は…」という言葉は、4 千年も前の古代エジプト時代からあったそうです。みんな年をとれば、このような言葉を言うようになるのです。もう一方で、若い人と話していたら「親は自分勝手なことを言って困るよ。」と言っていました。年配の人と若い人の話には、納得できる部分と違うと感じる部分がありました。私が言いたいのは、どちらの意見が正しいではなく、「互いの話を聞き合うことが大切」ということです。



この「互いの話を聞き合うことが大切」というのは、大人の間だけでなく、大人と子どもの間でも同じです。小さい子どもはよく話しかけてきます。「ねえお母さん聞いて、今日ね…」学校でも同じです。「先生あのね…」しかし、それらを受け入れられないことがあります。「今、ご飯の仕度をしているの、あとでね。」学校でも「今、連絡帳を見ているから、あとでね。」等。話を聞いてもらえなかった子どもたちはどうなるか？「大きくなったら話さなくなったよね。発達段階だから、思春期だから仕方ないわ。」となってしまいます。実は、これは発達段階・思春期のせいばかりでないので。小さい頃、聞いてくれと言ったときに聞いてくれなかった大人の責任でもあるのです。

では、年配の人や若い人、子どもの話をどのように聞けばよいのでしょうか。

「オウム返し」と「“そ”の付く言葉」で共感することが有効だと言われています。

「オウム返し」

例えば、夕食の仕度の時、お子さんが「今日ね、初めてかけ算九九を習ったよ。」と言ってきたら、「今日、初めてかけ算九九を習ったんだ。」と、言ってきたことを繰り返す（「オウム返し」）だけの方法です。

「“そ”の付く言葉」

例えば、お子さんが「担任の〇〇先生はとっても優しいよ。」と言ってきたら、「そう思うよ」「そうだね」「そういうことか」等、「そ」の付く言葉で、共感をすることが大切です。「違う」等、否定な言葉はダメです。



以前行われた新潟県青少年健全育成実態調査で、子どもから見た「大人の悪いところ」第 1 位は、「子どもの話を聞かないで、自分の考えを押しつける」でした。この結果からも、話をよく聞き、否定をしないことが重要であることが分かりますよね。